

滋賀県支部

リサイクルビジネスの現状と課題に関する調査研究

リサイクルビジネスは、エネルギー系として①リサイクル固形燃料（RPF）②バイオエタノール、バイオディーゼル燃料 ③バイオマス発電があり、廃棄物系として、①食品残さリサイクル ②廃プラリサイクル ③建設廃材リサイクル ④レアメタル ⑤ガラスリサイクルが主流となっている。

滋賀県のリサイクル事業者のアンケートによると、課題として「販路が狭い」「コストがかかりすぎる」、「資金が不足」、「リサイクル原料の調達難」が続く。

また、リサイクルビジネスを拡大している企業のヒアリングでは、「国内でのリサイクルが少ないこと」「分別収集システムの整備がおこなわれていること」「国民の環境意識の問題」「リサイクル原料が不足していること」「法整備がおこなわれていること」「リサイクル事業は収益性が低いこと」等を課題として認識している。

課題解決のための経営改善方策としては、以下の点が挙げられる。

（１）販路開拓…自社の市町村の中で、需要の可能性のある企業、消費者の認知度を上げ、まずは地域ナンバーワンを確立することが第一である。

（２）コラボレーション…自社が弱い分野をその分野に強い他社と連携する道を模索することが成功の秘訣である。

（３）リサイクルコストの削減…対策の第１は、従業員参加型の改善活動である。コスト削減のためには、各職種、各工程を熟知した従業員の改善提案活動が意外な効果を生む場合がある。対策の第２は、外部の専門家の診断を受けることである。企業内の人材は、従来の活動、ルールなどをベースとして働いており、自社の課題について正しい判断をできないことが多い。

（４）金融機関への対応と事業計画の再構築

収益性が悪い原因が、①顧客の希望価格に対応するために販売価格が低くならざるを得ないのか、②原材料の購入価格が高いのか、③生産効率が悪いのか、④製造経費が高いのか、⑤物流費が高いのか、⑥労務費が高いのか、⑦在庫が多すぎるのか、⑧販管費が高いのか、⑨商品のニーズが減少したのか、など様々な背景を解明して、効果的な対策を打つ必要があり、その対策によって、どのように収益性を改善するのかが“明らかに見える”形で事業計画を策定して金融機関に提出して、支援をしてもらうことが重要である。

（５）“三方よし”の理念を追求

リサイクル事業においては、「リサイクル原料の供給者（廃棄物排出者、不要品提供者）」、「リサイクル事業者（再資源化業者）」、「購入者（消費者、利用者）」の三方がいずれもメリットを得られ、結果として地域、日本全体、世界全体に貢献するサイクルが成立していなければならない。

（６）キャッシュフロー経営

損益計算書上の利益を追求するだけでなく、その企業活動において、「どれだけのキャッシュ（現金資金）を稼ぎ出せるか」ということを重視する経営に切り替える必要がある。